

# COVID-19 パンデミック下における看護学生のメンタルヘルスと感染予防行動

Mental health and protective behaviors in nursing students during COVID-19 pandemic

○杉本 敬子, 福澤 利江子, トゴバタラ ガンチメゲ, 竹熊カツマタ 麻子

Keiko Sugimoto, Rieko Fukuzawa, Togoobaatar Ganchimeg, Asako Takekuma Katsumata

筑波大学 医学医療系

Faculty of Medicine, University of Tsukuba

## 【背景と目的】

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的流行が長期化する中、看護学生への教育支援および生活支援の充実が急務となっている。本研究の目的は、看護学生への支援体制に示唆を得るため、COVID-19 パンデミック下における看護学生のメンタルヘルスと感染予防行動の現状と、それらとソーシャルサポートとの関連を理解することである。

## 【方法】

### 1. データ収集期間

2020年10月(1か月間)

### 2. 研究対象者

A 大学看護学生 (学部生及び大学院生) 307名

### 3. 質問項目

Google Forms による自記式質問票は、感染症流行下にて香港で実施された調査 (Liao et al, 2014) から抽出された、メンタルヘルス (精神健康感・睡眠・自殺念慮)、感染予防行動 (11項目: 高得点ほど感染予防行動が強くみられる)、感染症への心配 (高得点ほど心配が強い)、ソーシャルサポート (家族・友人・大学や教員の3項目: 高得点ほどサポートへの満足度が高い) を含む47項目からなり、専門家パネルや大学生でのパイロットスタディにて、妥当性が確認された英訳版を、日本語版に翻訳したものを使用した。本研究は、台湾の研究チームを中心とする国際共同研究 (Pramukti et al, 2020) の一部であるが、日本で収集されたデータのみを分析し報告する。

### 4. 分析方法

SPSS22にて、Pearson 相関分析にて、下記の仮説を検証した (有意水準  $p < .05$ )。

仮説1: 感染症への心配が高いほど、感染予防行動がみられる。  
仮説2: ソーシャルサポートに対する満足度が高いほど、メンタルヘルスの状態がよい。本研究は、倫理委員会 (筑波大学医学医療系/第1539号) の承認を得て実施した。

## 【結果】

1. 回答者数: 110名 (有効回答率 35.8%)
2. メンタルヘルス
  - 1) 精神的健康感: ずっと悪かった (6.4%)
  - 2) 睡眠: 全く問題がなかった (31.8%)
  - 3) 自殺念慮: 全く考えなかった (83.6%)
3. 感染症への心配
 

10段階中7が最も多かった (23.4%)

### 4. 感染予防行動

「マスクの装着」(95.5%)、「手洗い」(77.5%)、「人混みを避ける」(82.0%)、「室内の換気」(53.2%)、「友人とのかかわりを減らす」(52.3%)、「クラスメートや教員とのかかわりを減らす」(48.6%)、「部屋の掃除や消毒」(41.4%)の順に多かった。

### 5. ソーシャルサポート

表1. サポートのスコア(範囲1-4点)

サポート資源	MEAN ± SD	N
家族	2.8 ± 1.0	108
友人	2.5 ± 0.8	110
大学や教員	2.3 ± 0.8	110

### 6. 感染症への心配と感染予防行動との関連性

感染症への心配が強いほど、感染予防行動の「部屋の掃除や消毒」( $r = .32, p < .01$ )、「友人とのかかわりを減らす」( $r = .26, p < .01$ )、「ニュースを見る」( $r = .26, p < .01$ )、「人混みを避ける」( $r = .25, p < .01$ )、「手洗い」( $r = .22, p < .05$ )、「家族とのかかわりを減らす」( $r = .19, p < .05$ )が強くみられた。

### 7. メンタルヘルスとソーシャルサポートの関連性

友人からのサポートに対する満足度が高いほど、自殺念慮が少なく、( $r = -.25, p < .01$ )、大学や教員からのサポートに対する満足度が高いほど、精神的健康感が高く ( $r = .26, p < .01$ )、自殺念慮が少なく ( $r = -.31, p < .01$ )、睡眠の状態が良好であった ( $r = -.22, p < .05$ )。

## 【考察】

パンデミック下において、感染症への心配と感染予防行動、メンタルヘルスと大学や教員からのサポートは有意に関連しており、教育的・生活的な支援の充実が求められている。

## 【利益相反】

本研究における利益相反はない。

## 【引用文献】

- Liao, Q., Cowling, B. J., Lam, W. W., Ng, D. M., & Fielding, R. (2014). Anxiety, worry and cognitive risk estimate in relation to protective behaviors during the 2009 influenza A/H1N1 pandemic in Hong Kong: ten cross-sectional surveys. *BMC infectious diseases*, 14, 169. <https://doi.org/10.1186/1471-2334-14-169>
- Pramukti, I., Strong, C., Sitthimongkol, Y., Setiawan, A., Pandin, M., Yen, C. F., Lin, C. Y., Griffiths, M. D., & Ko, N. Y. (2020). Anxiety and Suicidal Thoughts During the COVID-19 Pandemic: Cross-Country Comparative Study Among Indonesian, Taiwanese, and Thai University Students. *Journal of medical Internet research*, 22(12), e24487. <https://doi.org/10.2196/24487>